



入試「失敗学」…先輩たちの「やらかし」集③



先輩達の「やらかし集」に戻ろう。

【失敗事例6】「バスに乗り間違えて、面接時間に遅刻する。」

〔直接原因〕：バスの系統を間違え、本来26系統に乗るべきところを202系統に乗る。

〔根幹原因〕：前日は友達と待ち合わせをして、試験会場に行き受験を終えている。当日も待ち合わせをしていたが、遅刻して1本後の地下鉄に一人で乗る(友達は予定通り待たずに自分だけで定刻通りに付く)。下車駅はあったが、そこでバスに乗り間違える。

①「遅れた」という心理的「あせり」。②下見は充分であったのか←一緒にいった友達は何度か高校説明会に行っている。本人は面接練習での志望理由があやふやであった。本当に自分の足で高校へ行っていたかどうかは疑問。

★トラブルに対する対応★昨日との違いに「景色」や「時間」で気づき。大人に尋ねて遅れても自力で試験会場にたどり着く。大変よい対処。バス代も余分に持っていたのも正解。→「下見の重要性」「誰か任せ(頼り)ではなく、自分で下見を主体的にする」

※3年の先生は高校からの連絡で、家庭訪問から検索に入っていました。

※「併願受験者」などに多い事例。これは京都学園受験者の事例です。なお、現在は京都学園は1日での入試になっている。

※両洋高校は今も2日間入試。両洋の面接時間は受験番号によって異なる。前日一緒にいった友達も違う時間帯での面接時間になることが少なくない。実は高3の学年の両洋高校受験者で失敗事例が生じている。



【失敗事例7】面接の時間帯を間違えて、遅刻寸前に到着する。

〔直接原因〕：面接の時間帯を勘違いする。

〔根幹原因〕：前日に発表される「面接時間」を十分に把握していなかった(控えずに、友達と同じと思い込んでいた)

両洋の「面接時間」は前日のペーパーテスト日(今年なら10日)に示される。中学校にも10日にファックスで送られてくる。受験生と同時の提示なのであろう。受験生は各自がメモをして控え、翌日に備える。中学校も生徒ごとの面接時間を確認はするが、「君は何時からだよ」などと注意を促す時間はない。両洋の面接は各自が自分で確認をし、自分で準備をすすめるのだ。

その中で、失敗事例は起きた。自分は友達より1時間前の時間帯の面接であったのに、「たぶん前の番号の友達と同じ時間帯の面接」と決めつけて行動したのだ。結果面接の集合時間に遅刻した。遅刻しても会場にたどり着いたので、「棄権」とはみなされずに「遅刻受検」として対処してもらえた。

通常1時間の遅刻は「受検放棄(棄権)」と見なされる。事情を申し出て、何とか高校側に配慮してもらえたが、これが通常ではない。その生徒は前期選抜の際には慎重に行動をしたのは言うまでもない。

【失敗事例8】「あっ、筆記具がない」。「あっ、上靴がない」

〔直接原因〕：「携行品」忘れ

〔根幹原因〕：「携行品」をいつ準備したかの（準備の時期の問題）

前日に準備していたのか。例年、夕方上靴を取りに来る生徒がいる。栗陵は1足であるが、高校はほとんどの学校が2足制。朝7時に学校へ取りに来た生徒もいた（「学校が開いていてよかった」）。朝に来た人は開いていなかったら、スリッパを持って行こうと次善の策を考えていた。

「あっ、筆記具がない」といった人は、それこそ試験会場に向かう電車の中でのこと。

「忘れ物をしても取りに帰るな！」は入試の大原則。では、その生徒はどう対応したのか。

★トラブルに対する対応★高校の先生に申し出て筆記具を借りて解答する。（当然、その学年が用意してくれた「黄金の鉛筆」も忘れていた。卓球の試合に行って「ラケットを忘れた選手」「ユニフォームを忘れた選手」「体育館シューズを忘れた選手」「ゼッケンを忘れた経験のある選手」は、決して同じように失敗はしないはず。これは「京都すばる」での卓球部員の事例でした。いつ準備するか、チェック用紙を利用して準備をいつするかが最大のポイント。

【失敗事例9】「受験票の落とし物が届いています」

〔直接原因〕：合格発表後に、「受験票」を落とす

〔根幹原因〕：合否発表後の気の緩み？それとも、併願である気安さ？

これも本校の生徒の**両洋高校**での事例。合格発表のあった日、その学校の担当者から

「■◇君の受験票が届いています」と連絡が入った。高校近くのローソンから届けられたという。電話を受けてすぐに学校へ報告に来ていた本人に確認をとる。「ない」とのこと、後日高校へ受け取りに出向く。

「受験票(受検票)」は入学関係書類受け取りの際に必要な。私学の学校には「合格通知」と共に、「入学手続き書類」を郵送する学校も多くあるが、公立高校の場合は、「合格発表を受検校で見た後、入学決定校に出向き、受検票を提示して入学関係書類を受け取る」ことになる。学校への報告は「入学関係書類」を受け取った後だ。

多くはWEB発表になってきた。ただ、合格の感動をとまだ校内発表をする学校もある。「密」を避ける視点が必要な今年度は、発表方法の変更も想定される。他校はすべて、パスワードを貰ってのWeb発表であつたり、郵送発表であつたりする。これには、個人情報の保護との

関係もあろう。

この失敗事例は公立の発表で今後も起こり得る可能性がある。なお、受験票の「再発行」は可能である。次の2点が前提になる。

①自分の「受験（検）番号」を控えている

②自分が自分であることを証明する書類を提示できる

（生徒手帳・パスポート・マイナンバーカード・保険証 等）

公立の得点開示も「受検票」と②の「自分が自分であることを証明する書類が必要

★「ウソー！」と思うような事例だが、実際に先

輩たちがしでかした失敗。新たな事例を増やさないようお願いしたい。まずは「自己管理」が出来るのかどうかです。自己管理は「自立への第一」です。

